

大雨被害 弁当売り上げを寄付 「上小阿仁村の復興に」

寄付金の目録を小林村長に手渡す石田さん（右）

大館市の桂城小学校6年生と同市弁当製造「花膳」は、昨年7月の記録的大雨で大きな被害を受けた上小阿仁村の復興に役立ててもらおうと、アメッコ市（今月8、9日）で販売した「鶏めし弁当」の売り上げ

の一部4万500円を村に寄付した。村役場で贈呈式が開かれ、児童らが見守る中で村に目録が贈られた。

桂城小の児童と花膳は2016年度から、ふるさとキャリア教育の一環としてアメッコ市に合わせたコラボ弁当を企画している。児童がアメッコ市会場で販売にも挑戦し、2日間で2025個を完売。今回、花膳の八木橋社長が売り上げの一部寄付を児童に提案したところ、児童側から大雨被害に遭った上小阿仁村に贈ろうという声上がり実現した。

14日の贈呈式には、6年生43人と教員、八木橋社長、村幹部などが出席。児童を代表し石田愛瀬さんが「上小阿仁村の復興と発展に役立ててください」と話し、目録を小林悦次村長に手渡した。小林村長は、昨年まで3年連続で発生した大雨被害と、昨年の被災状況などを説明。「（寄付金を）災害復旧に役立てていきたい」と述べた。
（小松田直嗣）

令和7年2月20日(木)秋田魁新聞より一部抜粋)